

地域共生社会実現のための研修プログラムの紹介

～困難な時代を乗り越えていくための支援者向け

「Let's 協力」カードゲーム～

(公財) 日本障害者リハビリテーション協会

病気や障害があっても、住み慣れた地域で役割をもって暮らしたいという願いは誰もがもっています。でも一人では解決が難しい問題に直面したときにはどうしたらいいのでしょうか。

日本の地域社会では、超高齢化がすすみ、支える人が不足している現状の中で、地域の課題は複雑化、複合化し、制度に頼るだけでは解決が難しくなってきたと言えます。地域共生社会の実現のため連携や地域住民の主体的な取組みが求められています。

私たちは、地域共生社会の実現に関する取組みを行ってきましたが、その原点であるWHO（世界保健機構）が提唱した「CBID*：地域に根ざしたインクルーシブ開発」の考え方に立ち返り、個人を支援することと地域に働きかけることの両方に取り組む方法をご提供できないだろうかと考えて地域共生社会実現のため「Let's 協力」カードゲームによる研修プログラムを開発しましたのでここにご紹介します。



カードの写真（Let's 協力カードゲーム）

*Community Based Inclusive Development

研修のねらい：

こんなことでお悩みではありませんか？

- ・自分の組織だけでは課題に対応しきれないと感じることが多い。
- ・なんとかしたいけど現場では日々の仕事に追われて手いっぱい。
- ・横の連携が大事といわれても、どこに声をかけたらいいかかわからない。
- ・でもつながることで可能性が広がることへの期待感はある。

そのようなお悩みに少しでもお役にたてれば、という思いから以下の4つを目標に掲げ、研修プログラムを開発しました。

- ①地域の多様なニーズを知ること。
- ②一つの組織でできることの限界を知ること。
- ③地域がつながったときの可能性を知ること。
- ④当事者への直接的アプローチだけではなく、地域へのアプローチの有効性と方法を知ること。

研修時間：2時間（ゲーム1時間、振り返り1時間）を基本とします。

研修方式：対面形式とオンライン形式のどちらも可能

研修方法：前半のカードゲームの実施では、ニーズカードと支援カードをグループで話し合いながら合わせていきます。

後半の振り返りでは、カードゲームで気がついたことや、参加者の地域で実施するにはどうしたらいいかについてもみんなで話し合います。

参加人数：対面実施は3名以上5名までのグループを作り、何グループでも実施可能です。

ファシリテーターが1名参加します。

オンライン実施の場合は、3名以上5名までのグループを作り、各グループに1名ずつファシリテーターが1名参加します。

対象者：

重層的支援体制整備事業や介護保険事業に携わっている方、NPO（地域づくり、外国人、子育てなど）でサービス提供に関わっている方、病院やリハビリテーション施設で地域とのつながりづくりに関わっている方、社協職員、民生委員、地域の民間企業、福祉関係者（障害、高齢、その他）、多職種連携を必要とする専門職の方、地域活動に関心のある学生など

期待される効果：

- 協力し合う楽しさを体験できます。
- 支援の限界とそこから脱却する考え方や方法が見つかります。
- 地域資源の活用による新たな可能性を発見することができます。
- 包括的な視点をもつことができます。

今後の予定：

一度試して見たい、という方のために公開講座を開催します。

地域で実施したいという方のためのファシリテーター研修を開催します。

一度体験したい方やご関心のある方は以下の事務局までお問い合わせください。

問い合わせ先：

〒162-0052 東京都新宿区戸山1丁目22-1

公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会 宮前ユミ

kokusai@dinf.ne.jp

このカードゲームは、公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会が開発しました。